

Monto Kaj Neĝo
Monata Organo de Monta kaj Nega Clubo.

山と雪

創刊號

札幌 山と雪の會 發行

昭和五年九月二十七日印刷
昭和五年十月一日發行

(毎月一回一日發行)

創刊號目次



創刊の辭

昨年度のスキージャンプ界に想ひして

登山の動機

札幌に於て開催せられた距離競走の

感想及順位一束 (上)

スキージャンピングに就て

大野精七

廣田戸七郎

伊藤秀五郎

高橋昂

木原均

木原均

雜錄

▲空沼小屋

▲ヘルヴェチアヒユツテ

▲山と雪の會々則

▲寄贈並新着圖書

▲其他

〔四〕

〔五〕

〔六〕

〔七〕

〔八〕

寫眞

▲雪の朝の空沼小屋

▲十勝岳に於けるシュナイダー氏

▲前十勝岳より十勝・上ホロカメトツクの連峰を望む

札幌

同

同

大谷雄三郎

創刊の辞

大野精七

本邦に於ける山岳或はスキーに關するスポーツが近時異常に躍進的興隆を來たしたるは國民心身の鍛鍊並に其の向上に對して同慶に堪えざる次第であります。

山岳並にスキーに關する月刊雜誌「山とスキー」は大正十年六月より北大スキー部の有志によりて發刊せられ、本年七月まで滿九ヶ年の間各位の御援助によりて繼續し得たのであります。

然し學生等が自己の勉學並に自己のスポーツの實際の餘暇の仕事としては、餘りにも荷重となつて參りました。結局兩兎を逐ふものは一兎だに得ずの誹りを免れざる状態に立ち至り、關係者の一人と致しまして汗顔に堪えぬ次第であります。遺憾乍ら「山とスキー」は既に第百號を以て廢刊致し、自然「山とスキーの會」は解散となりました。

先年我等の敬慕し奉れる 秩父宮殿下に於かせられては嚴冬の北海道を御視察遊ばされ、同時に手稻、奥手稻或はニセコアンやチセ・ヌブリ等の山々をスキーにて御登り遊ばされました事は全北海道民の光榮として忘る能はざる事であるのみならず、我等スキー同好家は總て我が事の様に喜び感激せらるゝのであります。

當時御供申し上げたる北大スキー部の仲間は「山とスキーの會」の事に就いて御下問を受け、雑誌の刊行を繼續す可き様との有難き御言葉を賜つたのであります。今日遂に「山とスキー」を解散せねばならぬ時に當つて、私共は涙を流して恐懼したのであります。

思へば雑誌の編輯、發行或は集金、發送等總て少數のスキー部員が犠牲的にやつてくれたのである。

學生は學校へ通學せねばならぬ義務がある。その學生が冬期は或はスキーの選手として活動せねばならぬ、従つて自然雑誌の仕事に缺陷を生じて来る。殊に營業方面とは全く縁の遠い學生にやらせるのは今日の狀態では無理である。よしやり得る學生があつたにしても卒業すれば遠く離散してしまふ、一定所に定住性の無い學生に大きな雑誌の刊行を強ゆるのは強ゆる方が悪るかつたのである。

然し此の光榮ある雑誌の刊行は止めたく無い。此處に於て同人八名相寄りて「山とスキーの會」と同じ精神を以て新たに、「山と雪の會」を組織し

一、山岳とスキーに關する研究調査及び獎勵

二、山岳とスキーに關する資料蒐集並に圖書及博物館の設置

を目的として雑誌「山と雪」を發刊する事となつたのであります。元より營利的刊行物では無く、唯本邦唯一の山岳スキー月刊雑誌を繼續せしめ、同時に本邦に於ける山岳とスキーに關する進展を計り度いと思ふのであります。

此處に「山と雪の會」を設立するに至つた梗概を述べまして各位の斯道發展に對する舊來の御厚誼を希ふ次第であります。

昨年度のスキージャンプ界に想ひして

廣 田 戸 七 郎

随分大きな見出しではありますが、昨シーズン——つまり一九二九—一九三〇年のシーズン——に於て私の見た競技會を綜合して、此處にスキージャンプ競技に關する私見を些か述べたいと思ひます。

私は昨シーズンに入つてから札幌に開催された一月十二日の高松宮殿下記念シャンツエの開場ジャンプ大會、一月十九日同じく札幌に開催の全國學生スキー大會、一月廿六日の札幌に於ける北海道ジャンプ選手權大會（全日本スキー選手權大會豫選會）、二月三日大鰐に開かれた全日本スキー聯盟主催の全日本スキー選手權大會等に於て觀察した處を綜合して感想を記して見様と思ふのであります。

ノルウエー三大選手の成果

筆にするも恐れ多いことではあるが、秩父宮殿下の尊い思召しと、大倉喜七郎男爵の特別なる御厚志とによつて、我が日本のスキー界は、去るシーズン、ノルウエー三大選手より親しくスキー術の指導を受け、實演を眼のあたり見る事が出来ました。

而して昨シーズンには實に其成果如何が我が國スキー界に表現されることになつた譯である。

ヘルセット中尉一行は、一昨シーズンの終りに日本の選

手達の技術の向上したことを非常に賞め且つ自分達の指導したことが、もう其頃に實現されて來たことを見て大へん喜んで歸つた。

事程に少くともスキージャンプは一シーズンを出でずして進んだのであつた。

昨年度はシーズンから云ふと未だ漸く一年目に過ぎないがその進況振りは先づ目覺しいと言つて然るべきであらう。昨シーズン、若しも伴、神澤、村本君が未だ學生であるとしたなら、恐らく其進況に磨きがかゝつて居た處であらうが、遺憾乍ら學生生活を去つて實社會に出分て充融通のつく時間を持たない爲に技の練磨の時間に不足して、昨シーズンの終りの目覺しい進況に磨きのかゝつた處が見られなかつたことは非常に遺憾であつた。

ずつと前からジャンプをやつて居る人達に樺太で高田、牧田、野呂、北海道で植地、清水、他地方へ行つて奥山、加久井、田中、馬場、新井、出野の諸君が居るが、この人達の大部分は一昨年ノルウェー選手のジャンプ振りを見、且つ又指導を受けた人達で、これ等の人達の昨シーズンの活躍振りは、已に何回も筆にされた處である。

札幌の記念シャンツェでの三十五米の最長不倒、大鰐での三十七米五〇の最長不倒、野澤での四十八米五〇の最長不倒記録は、從來の日本記録を遙かに抜いた記録であるといふ點に於て、日本のジャンプレコードの一跳躍の跡が窺はれ、且つ亦技術の進歩も此記録を生むまでに押して來て居ると見るのが、最も公平な見方であらう。

然りこれ等の最長不倒記録を作つた關口、牧田、大森の三君は、技術の進況に於て慥かに見るべきものがあつた。技術的進況を見た諸君のことは後述するが、少くとも多數優秀選手の現はれて來たことは、少くとも直接、間接ノルウェー三大選手の指導と實演の大なる功績の反映と言はねばならない。此意味からしてもノルウェー三大選手は充分なる成果を我が日本のスキー界に遺したものである。

飛行距離と技術

最初に比較的大きな競技會でそしてその一つの臺での最長不倒距離成績をあげて見やう。

49/30 於札幌北海道選手權大會 關口 勇 35.11

37/30 於大鰐全日本スキー選手權大會 牧田光武 37.5

先づこの三つが昨年度作られた各地での優秀なものである。

この記録を單に見ただけで勿論ジャムバアの技術と比較する様な方もないだらうが、私は今此記録を巡つて飛躍臺と技術について私見を述べやうと思ふ。

札幌の記念シャンツェと、大鰐のシャンツェと野澤のシャンツェの三つの規模を知り、大會當日の状況を詳さに知る人にこの三つの記録の内、どれが優れて居るでせうと問ふて見たい。

ヒントは私これから出して行くことにする。

先づ北海道選権大會で關口君の作つた記録三十五米の大會當日の様子はどうか、

天候は北西風相當に強く、時々吹雪きあり。晴間と風のない時を選んで飛ばねばならない状態であつた。

ジャムピングヒルのコンデイションは、中等度の良好状態であつた。

雪質は前夜の降雪を充分踏み堅めた状態で稍軟であつた。アプローチは四十五米餘、此間の最大傾斜は三十六度、

シャンツェの傾斜は八度位、臺の高さ約二米、着陸斜面は延長約六〇米、最大傾斜三十六度（30米—40米）間。而も此シャンツェでは最長四十五が手一杯である。だから四十米迄のレコードが出て良いのである。

次に大鰐の大會はどうであつたか、
天候、雪質、絶好の競技日和であつた。

アプローチは九五米餘、最大傾斜30度、シャンツェの傾斜四—五度、着陸斜面延長距離約60米。

このジャムピングヒルでは最長不倒四〇米が手一杯の状態であつた。

野澤の大會

この記録は緒方直光君のアサヒスポーツの記事と、富永正信君の記事と、大森君の言葉と、夏の野澤シャンツェの設計圖によつて私見を述べる。

天候は良好、雪質も悪くはなかつた由。大森君に言はずと、雪質が良くないので距離が出ませんでしたと云つて居る。

アプローチは九二米、最大傾斜は夏圖では30度であるが

大分スタートの方に雪を盛つたとのことであるから三〇度以上はあつたことであらう。

臺の傾斜は不明だが下向きと思ふ。落ちて飛んで居る新聞などの寫眞を見て判るし亦他のレコードを見て判る着陸断面は、約一〇〇米、最大傾斜 35° (25米—60米)間

この臺では最長不倒50米は樂々出ねば嘘である。

私はこの三つのヒントのみをあげて、解答の筆は世間がウルサイから落さない。

たゞシャンツエの規模が如何に記録に影響して行くかを述べて、そして此シーズンのジャムプ技術がどう動いて來て居るかを考へて見やう。

飛躍の新記録

飛躍の距離表によつて、最も良いレコードの作られたのは、野澤温泉に於ける二月九日の神宮競技會であつた。

成年組で樺太の大森數雄君は遂に四十八米五〇といふ新日本記録を作つて居るし、少年組では同じく樺太の竹内政勝君が四十五米の少年組新記録を作つて居る。

設備の大きさも亦この記録の出ることにあづかつて力あ

つたことと思ふ。

緒方直光君から、僕の處へ葉書をよこして曰く「人夫頭はなか／＼つらい。セツセと今盛んにアプローチを積みあけて居る。うんとレコードを出させて見たいと思つて居るんだ。」と云つてよこしたが、直光君の努力の賜物がこんどの新記録の生れたことに大いに與つて力あることは買つてやらねばならない。

たゞ技術がシャンツエの規模に平行して行つて居たかどうかが問題である。

といふことは、臺が大きくなつた時に飛んで居る一人の優れた選手が、小さい規模の臺でマキシマムを飛んで居た時の技術を出して飛んで居るかどうか、此處がジャムプアの技術を見る一番大切な處である。

元來シャンツエの規模は、或程度までジャムプ技術の進況を助けるものである。これは動すべからざる事柄である尙又數多く競技會が開催せられ、ジャムプアの試練ともなり練習ともなる機會を與へてやることも亦甚だジャムプ競技を向上させる點に於て緊要なことである。

細い技術の練習には、必ずしも大きなシャンツエを必要

とはしないが、競技に目を重ねて自信をつけるのには、大きな臺を、そして種々のコンデイションの臺を数多く飛んで見ることが必要である。

技術の急速に進歩する人は、より以上の臺に行くにつれて一層技術が進むものである。

此意味に於て日本に私は競技用ジャムピングヒルの少いことを嘆ずる一人である。

目下の處日本には未だ赤城山と野澤温泉のシャンツエの他には、まづ競技用として外國の一流を連れて來て飛ばせても良いものがない。

良い規模の競技用のジャムピングヒルが数多く各地に出来る様な時代が來てこそ、多くの傑出した選手を見出すことが出来るのである。出来るだけ多くのジャムプ競技の機會を各地の人達に與へてやることは結局その技術の發達と普及になり、多くの人材を生むことになる位のことは三才の童兒でも判る處である。

日本の水泳や陸上競技が世界のレ、ベルに驅け登つて來たことは、各地に多くの理想的と言はるる大プールや、大ゲラウンドの設置を見、且つ各地方に競技會が繁々と行はれ

そして幾多の無名の士に競技の機會を與へてやつたことが優秀な選手の傑出を見た所以である。

競技會を数多く各地方で開催して欲しい。そしてもつともつと競技用のジャムピングヒルを各地に作つて欲しい。そして日本のスキージャムプをより多くの人達に味はせ、そして普及させて、その内から水泳の高石、鶴田君や陸上の織田君、南部君の様な世界的傑物を出したい。これが私日頃の希望である。

ジャムプ競技は距離のみではない

ジャムプ競技は距離のみを問題とすべきでないことは今更喋々は無駄である。

「飛行の技術の習得」これが大きな規模のシャンツエに行けば自づと距離を作つてくれる。

判り易く言へば、技術の進況が50米級の臺に行つて五〇米の記録を出せる程度に進んで居れば、自づと50米のレコードを生む選手が出るのである。

然し餘技となると、なか／＼實力が出ないことがあるし又時には實力を出さずに飛んで終ふ場合もある。それは種

々の状態がさうさせる場合が多い。

例へば競技會が数少ない様な場合、どうしても此大會で賢く飛んで良い成績をとらなければならない様な場合即ち競技會に拘束される様な時は、事實本當の實力が出ないことがよくある。だから私は此の意味に於てもつとく、數多くジャムブ競技會を開催して欲しいと言ひたいのである。本當にフ、ライ、な氣持で飛べる様な競技會が數多く各地で開催される日を私は望むのである。

此意味に於て私は赤城のシャンツエを世に再び出して欲しいと云ひたい。

赤城のシャンツエを

世に出して欲しい

野澤のシャンツエと赤城のシャンツエが、本州では、競技用ジャムビングヒルとして値打がある。

このことは、私が已に繰返して居ることであるが、昨年赤城のシャンツエが世に出なかつたことは、本當に嘆かましいことであつた。

緒谷六合雄氏が千島へ飛んで行つて終つた爲に赤城のシ

ャンツエが泣いて居るとばかり云ふ譯にも行かない。また群馬縣の前の内務部長岡本保雄氏が樺太へ轉任して終つたのでガツタリ、縣の方で顧みてくれなくなつたといふので、赤城のシャンツエが忘れられる様になつたと云ふ人もあるが、これも一つの原因には相違ないが、然しあの立派なシャンツエを何故世に出す様に考へてくれる人が居ないのであらうか。

未だ赤城山には、文ちやん以下緒谷氏の家の子郎黨があるのシャンツエを守つて居るではないか。

恐らくこの人達はシャンツエの面倒はいくらも見てくれる筈である。大會を組織してくれる人さへあれば良いのである。

一昨年は群馬縣廳と東京朝日新聞社とが主催して、ノルウェー三大選手を迎へて花々しいジャムブ大會を開催して下さつて、どの位日本のスキージャムブ界に効顯して下さつたか知れない。

どうか今後も續いてこの大會をやつて欲しいと願つて居たが、昨年は遺憾ながら舉行されなかつた。

一九三二年のオリツピックも間近いことである。必勝を

期して行く爲には、是非とも五〇米のレコードに自信を持てるジャムバアを送らねばいけない。

重ねて赤城山のシャンツエで大會の開催されんことを望む。

技術の變遷

私は昨シーズンのジャムプ界を見て、我が國のジャムプ技術は一跳躍の轉換期に入つたといふことを、已にアサヒスポーツに書いたことがある。

而して昨シーズンの各地の競技を見た人は大部分私の見解に同感であると思ふ。

たしかに昨シーズンの我が國のジャムプ技術の進況は、昔日のジャンプ振りの域を脱して來て居る。

而して各ジャムバアが、この轉換期に入つて如何に技術の向上の爲に努力しつゝあるかをも充分見ることが出来る人数の少數を言ふ勿れ。

樺太の高田、牧田、竹内兄弟、北海道方面で宮村、關口四ツ谷、阿部、丸山、其他の地方で奥山、神代、出野の諸君等々の進況に對しては、當然眼のある人は賞讃の言葉を

呈するであらう。

ジャムプ界で先輩と呼ぶことは、語弊があるかも知れないが、伴、神澤、村本の諸君が、昨年不振であつたと云ふが、慥かに練習不足である。これは社會に出て終つたことで止むを得ないことである。

然し伴君は日曜毎に東京からワザ、大會目指して内地のスキー場に練習に行つて居たとか、神澤君は八師團の至寶の如く崇敬されて、昨年八師團のスキー隊の大活動の爲に盡力し、之が東北地方のスキー界に反響を與へ、良き東北のライターとなつて居ることは、東北スキー史上に残さるべき事柄である。彼が若しも足首を傷めなかつたならば全日本大會當時の彼の奮闘は期して待つべきものがあつたに相違ない。

村本君は第七師團に入つて、殆んど毎土、日曜札幌へ出かけて來ては、練習して居たが、何と言つても學生時代の様には行かなくなつた様だ。

少くともこれ等の三君が昨年の全日本スキー大會のジャムプ競技に入賞の機を逸したとは云へ、學窓を去つても尙今後の活動を續けんとして居る心情は、如何に尊いか知れ

ない。これ等の諸君のこの努力が、この意氣が日本スキー界特にジャムプ界に刺撃を與へて居ることは筆や口では表せないことである。

先シーズンの終りに野澤へ合宿した東京方面の大學専門學校の諸君は、どういふ飛び型をして居たか私は知らないが、少くとも札幌へ來て札幌の記念ジャンツエで飛んだ時のジャムプ振りを見て私はこの進況と云ひたい飛行を見た。

札幌では、法政の神代君、早大の奥山君、明大の栗谷川君、北大の武野君等は傑出して居た方であつた。

續いて開かれたインターカレッツでは、上記の諸君に續いて北大に五十嵐君が名を出して居る。

北大の宮村君は最も囑望されて居た一人であつたが、遂に大會前足首を傷めて充分その實力を發揮することが出来なかつたことを私は甚だ遺憾に思ふ。

その後私の關係した大會に全道選手權大會、北海道中等學校選手權大會がある。

此處で斷然名を表したのが小樽の關口君、四ツ谷君である。阿部君（札幌）丸山君（樽商）等もこれ等の大會が生

んだ新人である。

次いで二月の全日本大會神宮大會に樺太の牧田、高田、竹内兄弟、大和田の諸君が奮闘して名をあぐるに到つたのである。

飛行振りについて云ふならば、樺太の諸君は概して牧田君の飛び型に類似して居る。即ち前傾姿勢の不足な高飛躍法をして居る。私が變つたなあと見たのは高田君である。

高田君は從來常に高飛躍法に屬する飛び方をして居た。そして前傾姿勢が殆んどなかつたが、今年、持前の高飛躍の踏み切りに比較的良き前傾姿勢を見せて次第に合理的な飛び方をして來て居る。

高田君に類似して居るのに竹内君を私は推す。

恐らく高田君は先年赤城でノルウエー選手達のジャムプ振りを見て改良することに着手したものであらうと思ふ。

今後大きな臺で競技が開催されるにつれて合理的なフォアラゲをとらなくては、到底追いついて行けないことになる。この點を大いに樺太の諸君に老妻心までにお知らせしたい。

北海道、特に札幌地方のジャムプの進況振りは、札幌に

私が住んで居る關係で一番精しいことが云へる。

如何にシャンツエが良きジャムバアを生むかといふことが今シーズン痛切に我が胸を打つてくれた。

札幌の記念シャンツエが、現在今シーズンでは未だ練習用として一般向きではないが、あの臺が如何に良きジャムバ技術を教へてくれたかは、私が今更此處に喋々するまでもなく、良きジャムバアが生れたことで判る。

今シーズン比較的整つた飛び方で合理的に飛んで居た内に早太奥山君が居るが、高橋君の話によると、あのフォームは札幌へ来てあの臺を飛んで三日目から覺えたといふ居た。

ジャムバの年数の不足な人には、さうすぐはあの整つた型は覺えられまいが、奥山君は相當ジャムバをやつて居る人であると私は思ふ。だから良き臺は彼に良きフォームを與へたものであると云つて良い。たゞ難はやゝもすると力なきジャムバに陥ることである。然しまづあれから後の大會毎に優秀な成績をあげて居る奥山君は、今シーズンの第一者であらう。

法政の神代君、フライトのフォアラゲで札幌、大鰐各

地で見る人の眼を驚かした飛び方をして居たが「あのフォームも札幌のシャンツエが覺えさせませんでしたか」と私は聞きたい處である。

同君の長はサツツの力強さと、フライトの強い前傾（それは決して不合理ではない）にあるが、難すべき點も亦多々ある。

再三私は同君に苦言を呈するが、着陸の動作まで力を入れてその後にもう一奮張り頑張ることを望む。そして來年は是非立派なフォームで立つて欲しい。

小樽の關口君、去年沼尻であの小さい臺で抜群の成績を見せてヘルセット中尉一行に感嘆の聲を與へた同君は、年が未だ若いから餘り賞めると早老になつたり、進歩が止つて終ふといけなから、發奮することはかり言つてやりたし男である。

札幌の記念シャンツエ開きの時には未だシャンツエが恐し相であつた。それに練習不足の様であつた。去年沼尻で見た時の面影が一向見られなかつた。が俄然北海道豫選で素破らしいフォームを見せて、少くとも當時のスタイルジャツチ白鳥君と僕と輔佐の村本君に讚嘆の聲を咽喉まで催

させた。

然し未だ練習不足だと私は思つて居た。

後で聞いて見ると小樽の驛に勤めてゐた頃は一日徹夜して翌日は休日の三―四時間を寝て、そして練習して居たことである。而もこれが彼の日常生活であつた。だから札幌の大會に来る時は何時も睡眠不足の状態を以て大會に出て來て居た譯である。

而もその不規則な日常生活、非健康的な日常生活をして居て、北海道豫選であの立派な成績をあげたことを賞めることは過褒でも何でもない、當然である。若しその過褒に甘じて大家になつて終ふ様であつたら、同君の前途はもう終ひだと私は云ふであらう。

大鰐へ行つて僕が今度來た北海道に素破らしい選手が出たと云つて周りの人達を吹きまくつてやつたが、大會の時にはとう／＼本當の素破らしいフォームを見せなかつたので、どうしたと私は言はれたが、私はどうもしはしないのである。

大鰐のシャンツエで、あのコンデイションだから、あのコンデイションに合ふ様に飛んで居たのでせうと答へた。

後で同君に聞いた處、たしかにさうであつた。そしてあのシャンツエの着陸斜面の緩いのは氣の毒であつたと言つたら、いやよく修理されて居たので斜面が急になつたなあと思つて飛んだと云つて居た。味ふべき哉此一言、ジャムブの選手諸君に僕は提す。

同君は未だ芽が出て來たばかりのジャムバアで、これから愈々本當に油の乗る時代に入るのである。明後年のオリムピック行には大いに期待を裏切られない様に努力して、行つて欲しい。

札幌の記念シャンツエは未だ若い良いジャムバアを生んで居る。

それは札幌師範の阿部英三君と、小樽の四ツ谷勇君と丸山君である。この三人の選手達はどういう臺で練習して居たかは詳しく知らないが、勿論記念シャンツエの様な大きな臺で飛んで居たものではなからう。小さい臺でうんと練習して來て居る人には、樂々と記念シャンツエが良きフォームのフオームをとらせてくれて居る。

フライトのフオームだけなら丸山君が一番良いフォームであるが、未だジャムブ全体が未成品であることが同君の

將來を思はせる。四ツ谷君と阿部君とは何れも着陸の動作に悪い癖がある。あの着陸のテレマークジツツエンまでは良いが一方は右肩を出す癖があり、他者は左肩を出す癖があつて、それに体重が二人共殆んど後ろに残つて飛んで居る。だからイザといふ處で頑張る力が出ずに轉んで終つて居る。

此點大いに改良の餘地がある。

尙其他に今年札幌の記念シャンツェが作つた良き選手は多く居るが以上の四君は若年であるだけ先が大いにある。

此四人が野澤の神宮大會に行つたら恐らく何れか一人は五〇米のレコードを出したに違ひないと私は思ふ。若いこの四人の選手諸君の特別の自重と技術の練習を大いに期待する。

誰が言ひ出したかジャムプ王國北大。

昨年の不振に對しては、誌上で兎角の評をすることを私は敢てしない。

凋落と語らん人は語れ、

没落と言ひたい人は言ふが良い。

而して敢て私は昨年の不況を選手達の不幸事續出によつたと云ひたくない。

そして又北大スキー部に對する希望とか愚痴らしいことは何も筆にしない。

已に北大スキー部の現在の人達には、凡べてが間違ひなく判断せられ、そして覺悟されて居るからである。即ち凡べての用意は築かれて居るであらうから。

そして北大の第一線に立つ植地君、武野君、村井君、宮村君、奥井君、五十嵐君、關君等々がよく一致協力して昔日の北大のジャムプの榮を現出するであらう。

東北、信越方向のジャムプはどうであらうか。

各地方には、未だ大鏑へ出場して來なかつた選手の内、優秀な選手諸君も居る様であるが、先づ大鏑へやつて來た選手諸君を見ると、樺太、北海道の選手及びこの地方の出身のジャムプアの技術には一步を譲つて居る様に思はれる。飯山には良きシャンツェがあり比較的優秀な選手として高橋君といふ人が名を擧げて居るに過ぎない様である。此處大いに信越、東北方面のジャムプの尙一層の奮闘と努力を望みたい。

而してジャムプ技術から云ふならば、慥かに大部分のジャムプア達には各部分々の技術についての概念は持たれて来た様である。この點だけでも昔日の日本のジャムプ技術の殻を破つて居ると私は思ふ。

更に今年優秀なる成績をあけつゝあるジャムプア達は、ジャムプで一番大切な踏み切り法と、空中に於ける前傾飛行法について深く苦心して居た様である。そしてその苦心力作の跡は慥かに歴然と各大會で覗ふことが出来る。この點にも破殻躍進の映像を見ることが出来る。

更に進んで舊感より脱したる、舊き記録を遙かに抜き出した飛行距離記録の現出、これも亦舊シーズンの跳躍であり今シーズンの收穫である。

而して新人の輩出も亦數ふに足るべき大いなる收穫である。

五〇米、六〇米の記録の現出しなかつたことは遺憾と云へば遺憾であらうが、現今の状態を以てしては記録の大を餘りに要求することは少し早い。

斯く觀察を進めて来るならば、本シーズンの收穫の大なりしことを容易に吾人は知ることが出来る。然し一方全般

的に練習不足であつたことは事實であるが、此點を大いに努力されたい。

吾人は、シーズンを送るに當つて將來への希望、特に一九三二年のオリツピックへの準備を立てようではないか。

ジャムプ練習と競技會

ジャムプ技術の進歩を促し、普及を測る爲に最も大切な事柄はこの二つの條件である。この條件に用意を提供するものはジャムピングヒルの設備である。

練習に關しては一人の親切なる、そして該博の智識を有し、正しく指導してくれるトレーナーを必要とすることは論を俟たない。

仲間同志の研究、これは勿論必要のことである。この方面の問題は他日に譲り、吾々は練習と競技會に關係の深い時期の問題を今考へて見よう。

吾々の眞剣に味の入つた練習は何時やるべきか、而して何時出来るであらうか。

シーズンがやつて来る。

そろそろ練習に取りかゝらねばならない。

このことは、何時も新しきシーズンを迎へるに當つて等しく吾々の抱く處である。

然しシーズンがやつて来て本當に練習らしい練習の出来るのは、北海道方面に於てさへ初雪後少くとも二週日乃至三週日が必要とする。年によつては積雪量が少くつて三週日後を以てしても満足の練習を開始することが出来得ない場合がある。

一月に入ればもう矢張り早に競技會が開始される。

大會を迎へての練習には、また異つた氣分が作られるけれど、その間の練習にはもう樂々とした氣持で、よく考へて落着いた氣持で練習が出来なくなる。自然焦つて來る様な事になる。

此意味から云つて吾々は春のシーズンを最も有効に練習に當てねばならないことになる。

來年はもう間もなく來る

來年が來てから來年の準備では已に遅い。

吾々が來るべき年の奮闘を期するならば、去り行かんとする前シーズンに備を立ててそして充分考へて研究練習に力かゝらねばいけないと思ふ。

競技會は、外國邊りでは十二月廿五日には、大抵の處でクリスマス大會として、シーズン初頭の競技會が開催されて居る。

我が國では十二月中に開催されたジャムブの競技會は殆んど其例を未だ聞かない。

良き選手を作り、ジャムブを普及する爲には競技會の數多きことを最も必要とする。試練は此處にあるからである如何なる方面の技術でも職業に於ても數多くその事に經驗を持つて居る人には敵はないことは已に周知の事實である。

一人でコツ／＼練習して行くことには勿論尊い處がある然しその成果を挙げ自分の努力の跡、研究の光りを知らんとするならば、業を同じうし、技を等しくして立つ人達と競ふこそ始めて自己の試練の第一歩が始まるのではなからうか。

競技に進んで居る人達は恐らくこの試練の機會の多いことを望んで居るであらうし、亦さうあるべきが當然であるこの意味に於てスキージャムブも亦數多くの競技會の開催を必要とすることになる。

或一つの大會で一躍驍名を擧げる選手を以て天才兒と人達は呼んで居るが、その天才的人には、或は名をあけるまで競技會らしい競技會に出たことがなく、始めて或一つの競技會に出て名をあけることがある。

これを以て天才的選手を生む爲に競技會は數多くとも宜しいといふことを斷じては間違ひである。このことは世に天才的と云はれたる人の没落の早い例を吾々が各種の運動競技に眼を轉じて見れば容易に知る事が出来るのである。

試練の機會を多く與へる爲に、吾々のジャムプ方面の競技會開催の多からんことを此處に繰返すと共に、競技會に必要なジャムピングヒルの設置の、各地に今日以上數多く出現せんことを望むものである。

ノルウエーのホルメンコルンの競技會は、たゞ一つしかない。そしてそれが實に世界的に有名なことは間違ひない。その最大權威ある競技會はノルウエーではたしかにこの大會一つである様に思ふ。

然しノルウエーには、もう一つ全國的の毎年各地持廻りで開催して居る、ノルウエーの選手權大會があることをも私達は知つて、ノルウエーのスキー界を見ねばならず、又

論じなければいけない。

ホルメンコルンはノルウエー全土のお祭りであり、そしてその大會はノルウエー選手の大きな希望を投ずるものがあり、亦選手達の登龍門であり、慥かに世界的である。

この最も權威ある大會に榮譽を捷ち得んが爲にノルウエーの各地方の選手は努力し、各地方のクラブは亦地方出身の選手に良き成績をあけしめんとして、永い年月幾多の苦心を積んで來て居るのである。

そして單にジャムプから云つても、競技用のシャンツェを大抵のクラブが持つて居る。ヘルセット中尉の話によればホルメンコルン級のシャンツェはオスローの近くでさへ二十有餘もあると云つて居た。

その各地方地方でのジャムプ設備の整備が幾多の優秀なる選手を輩出して、今日のノルウエーのジャムプの隆盛を來して居ることは慥かである。而して試練の機會を數多く經た選手がホルメンコルンの第一人者となり、オリムピアマンシヤフトとなつて、ノルウエーの堅陣を形作つて居るのである。

この意味に於て日本のスキージャムプ界をノルウエーに

早く比肩せしめんと欲するならば多くの整つたジャムペン
グベルの出現と、そして數多くの試煉を與へてやる様にジ
ャムブ競技會の頻々と開催されんことを、三度私は繰返す
次第である。而もこのことが日本のジャムブ界を外面と内
容と共に充實せしめる事に外ならないのである。

吾々がジャムブを普及させ、延いては世界のノルウェー
に比肩せんが爲に今日努力して居るのである。吾々は何れ
外國人に遊覽に来て貰ひたい爲にスキージャムブを壯んに
し、スキー場を數多く殖やさうとして居るのではない。吾
等は常に世界が相手であることを念頭に置かねばならな
い。吾等が一日も早く世界的になる爲に良き方法と手段と
を以て、日本のスキージャムブ界否スキー界の爲にお互が
努力して居るのではあるまいか。

一九三二年のオリムピックの前哨戦は、來年のシーズン
に行はれる時期にまで、もう押し迫つて來て居る。

來年のシーズンの來る前にレークプレシッド（一九三二
年冬季オリムピックの開催せらるゝアメリカの Lake Placid
のオリムピア行の準備を語るは少し早いと思ふ
人があるかも知れんが、夏の競技に先だつて行はれる吾々

の冬季競技では、もう今からその準備に入つて計畫を考へ
て早くはないのである。

私は前に昨シーズンの我が國のジャムブ界の狀態を以て
一跳躍したと述べた。それが事實であるからさう述べたの
である。而して今シーズンを過ぎた來シーズンには、理想
的に設備の整つた競技場を必要とする傾向にまで進むこと
は容易に見られるのである。

吾等是一九三二年のオリムピック行は、第一回の如き見
學第一で出發するオリムピック行であつてはいけないと思
ふ。少くとも吾々は入賞圏内に一步を進める此意氣込と覺
悟を以て出發せねばならない。否、此意氣込みと覺悟を吾
等後陣に備へを爲して居るものは、派遣さるゝ選手達に培
つてやらねばならないと思ふ。

此爲には、來シーズン各地で數多くのジャムブ大會を開
き、そして有望なる選手を各地より推薦させ、來春を期し
て最も適當地を選び選手の許す限り合同合宿を爲さしめ
そしてその内からオリムピック行に最も適當な選手を決定
する様にすべきであると私は述べる。

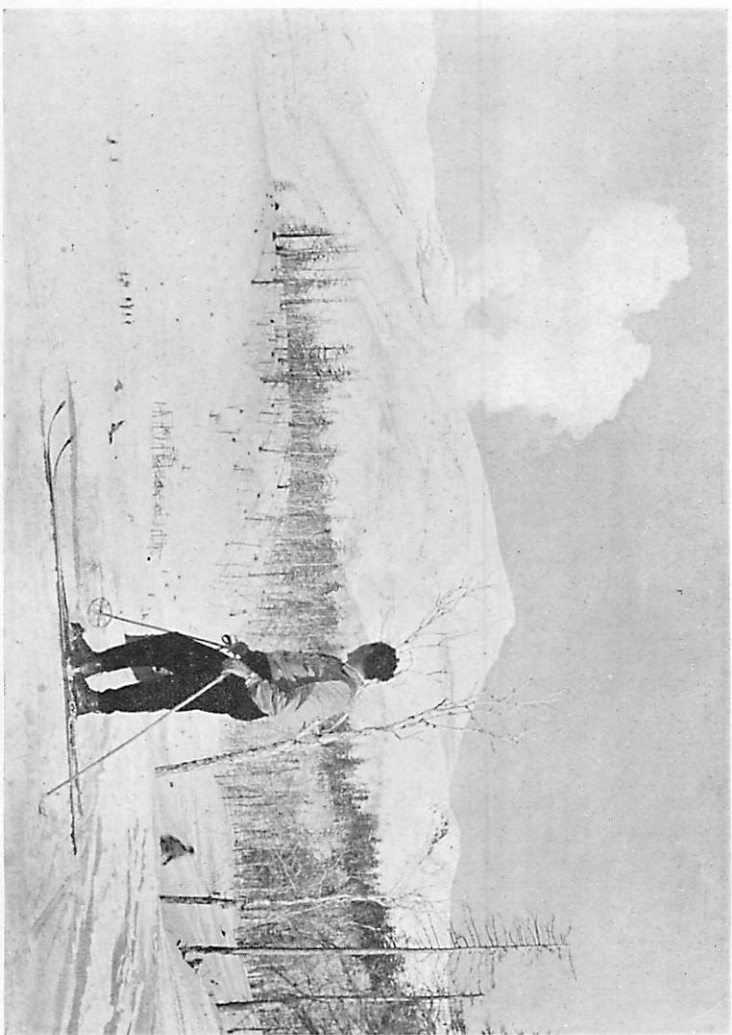
そして若し費用の用途さへあるならばノルウェーより最

も適當なる一流の選手一名で良いから招聘してこの合同合宿のトレーナーたらしめ一層オリムピア一行の技術と健闘的意氣と覺悟を強固にしてやる方法をとつてやつて欲しいと私は日本のスキー界に叫びたい。

先年のサン・モリッツのオリムピックのシーズンに於ても、イタリー、フランス、ポーランド等にはノルウエーの一流を呼んで正しき理論と良き實演を供せられ、そしてあのサン・モリッツの成績にまで漕ぎつけて居るのである。

此私の考へは獨りジャムブにのみ限つてのことではない。オリムピック行のチームに對する希望である。

稿を結ぶに當つて日本のジャムブ界のみならず日本のスキー界が昨シーズン躍進した跡を喜び、そして各選手諸君の健闘に慰勞し、更に一九三二年のオリムピックを目指して、各選手諸君の自重と良き準備をとられんことを望む次第である。(三〇・五脱稿)



十勝岳に於けるソユナイダー氏

大谷雄三郎

登山の動機

伊藤 秀五郎

あの佛蘭西の最も優れた近代登山家の一人であり、且つ山岳文學史上に燦然たる名をとどめてゐるエミール・ジャベールのいふやうに、私達のこの日常の變化に乏しい單なる營みのみの生活のなかへ、山登りに對する強い希望をとりいれることが、果してひとつのよりよい生活を得ることになるかどうかはしばらく擱き、登山(註)の歴史の比較的新しい我國でさへ、如何に多數の人がその「悦しい山登り」を實行してゐるかといふことは、寧ろ驚異的である。そしてまた、このやうに山登りが近年急速に一般化されて來たことの理由が何處にあらうと、或はまた雲霞の如くに押し寄せる登山者群によつて、山からその自然のまゝの山らしさが失はれて行かうと、ある一部の潔癖な登山家達が考へ

るやうに、山に無理解な登山者達に依て山の神聖が汚されようが、とにかく山登りが現代の最もアトラクティブな流行の一つとなつてゐることは、疑のない事實である。そこには勿論單なる浮薄な流行にのみ引きずられて何らの自覺なしに行く多くの登山者も存在しよう。けれどもまた或る人達にとつては、山登りはラスキンのいふ「思索」であり、或はフレッツシュフィールドのいふ「藝術」であり、或はキングレイクのいふ「創造」であり、或はまたフィンチのいふ如く人生に於て「生命」そのものに次ぐところの最大にして最上のゲームであるといふやうに、何者にも換へ難い生活となつてゐることも事實である。それと同時にまた山登りを單なる娛樂として日常生活にとり入れてゐる人もあ

り、また或る人達は、山登りのメタフィジクスには頓着なく唯フィジカルな運動としてやつてゐる人もある。このやうに山登りに對する考は人に依て非常に異つてゐるし、またその山登りの上に於ける態度傾向といふやうなものもかなり相異があるけれども、しかし結局は如何なる登山家にとつても、かのレイバーンのいふやうに「山は單なる言葉に依つて言ひ表はされるには、餘りにも微妙に登山者の心にまで親はしいもの」となつてゐるのである。

(註) こゝにいふ登山とは、純粹の登山、登山のための登山をいふ。即ち、他の目的、例へば科學的研究や狩獵や宗教的苦行や或は單なる交通等に附隨して行はれることから離れて、純然たる遊戯として登山を第一義的目的とするものを意味する。この意味に於ける登山の發達は、交通の發達の如き經濟的條件に原因する以外に、古代及び中世に於ては決して見出し得なかつたところの、美ならざるもの、不均整なるもの、又はより、荒々しき自然のうちに美を發見した近代心の芽生えと必然的な關聯をもつてゐる。かゝる近代的な感覺感情は、かの一般に現實に満足せる心、無限の探求心、不斷の憧憬としてあらはれる廣義の浪漫精神のうちに生れ、この精神のうちに生長した。

それならば私達は何故にかくも強く山に牽かれるのであ

らうか。山に對してそれ程にも激しい熱意と憧憬とを馳けさせるものは何であらうか。この疑問は極く普通に誰もがもつ疑問であらう。殊にその山登りが大きな困難と苦痛とを伴ふものであれば、何を苦んで山へなど行くのかといふ疑問は、單に全く山登りそのものに理解のない人達ばかりでなく、實際に山登りを行つてゐる登山者自身ですらしばしばもつことのある疑問である。しかもそれに對して、直接登山家の口から答へられる場合は極めて少い。その點に關しては極く少數の登山家が稀にしか書いてゐないのである。そして、それにはまた十分な理由のあることである。それは、一つには、登山家に共通するところの寡黙な氣質にも依るけれども、だいたい山登りといふものが、もともと極めてインデビジュアリスチックなものであるから、自分自身の山に登る理由なんかは考へたとしても敢へて公表するに當らないからである。そして、それが唯行きたいから行く、といふ甚だ漠然とした、しかし一面には極めて強い意志を現はしてゐる一つの絶体的な理由の外に、更に尙多く言ひ及されることの甚だ少い理由なのである。我國のある高名な登山家も明かに次の如く言つてゐる。

「私達が山へ登るのは、つまり山が好きだから登るのである、登らないでは居られないから登るのである。なぜ山に登るか、好きだから登る。答は簡單である。しかし夫で充分ではあるまいか。」と。そしてこの短い言葉は、永い経験の上にたつて眞實の登山者の心をいつた甚だ意味深い言葉でもあるのだ。實際、いま現に山に登つて愉しんだり苦しんだりしてゐる登山者にとつて、その山登りの理由がどうであらうと、そんなことはまつたくどうでもいいことなのだ。何故といつて假令その山登りが如何なる形のものであつたにしろ、彼はいま彼のもつその山登りから最も大きな喜びを見出しさへすればいいのだから。

けれども、私は以前から考へてゐるのだ。なるほど自己の山へ行く理由などは、殊更に公表しなくてもよいであらう。しかしながら、自己の、更にひろく一般の山に登る理由を考へてみることは決して悪いことではない。寧ろ登山者自身にとつては甚だ役立つ場合がある、と。少くとも私自身の経験に於ては、山登りの動機と、及びそれとの關聯に於てその内容本質に對する正しい理解をもつといふことは、もと／＼その内容の極めて複雑で、その態度傾向形式

等に様々のものが存在する山登りのうへに於て、山登りそのものを理解するにも、また私自身山登りを行ふ上にも、かなり多く役立つところがあつたと信ずる。例へば、如何に各登山家に依つてそれぞれ登山の態度傾向が異なるものであり、また何故に多くの登山の形式が存在するかといふことなども、その動機に對する正しい理解なくしては到底よく説明され得ないであらう。何となれば、登山の諸形式はその動機の必然的な表現であり、その態度傾向等はおのづから動機に依つて規定されるからである。それ故に私はこゝに少しく山登りの動機に就いて考察してみようと思ふ。

×

いつたい、山登りは精神を爽快にするとか、志操を雄健にするとか、意志を堅固にするとか、或はまた身體の健康をもたらすとか、さういふやうな極めて普通に常識的に考へられるところの謂はば登山の功利的な立場はしばらくおいて、純粹の山登りに於ける動機となるものには、更により内面的な精神的な多くの要素が在ることは、一般的に認め得られることである。私は私自らの貧しい山への経験から、その山登りの動機となるべき要素の幾つかを、現在で

は次の如く考へてゐる。但し、私がここで取扱ふ山登りの對稱としての山は、單に氷雪に被れた高山や最高の技術を必要とする困難な岩山などのみを指すのではなく、より低い平易な山々や更に日常私達の一日の行樂の對稱として選ばれる手近な丘などに至るまでを含むところの廣い意味に於てのそれである。従つて以下に用ひる自然なる言葉はそのまま直ちに山なる言葉に依つて置き換へられて少しもさしつかへないのである。

登山の動機

一、純粹に生理的なもの。

イ、自然の健康なる空氣に對する都會生活者の趨向。

ロ、純粹な生理的肉體的な解放運動を欲するもの。

ハ、不斷の連續的な生活勞働による疲勞の回復休養。

これらに就いては説明するまでもない。最後の場合は多く精神的のそれである。即ち近代のルナパークや酒場の雰圍氣に於ては到底満足され得ないところが、山岳に踏み入ることに依つてはじめて Complete rest の状態を経験するのである。

二、極めて素朴なる感情に於て單に自然を憧れるところ

三、自然に對する宗教的な憧憬。

如何なる民族にも共通する最も原始的な感情である。例を我國にとれば、昔から有名な山の殆んど總ての山頂に存在する神社は、これの最も顯著な表現である。且つまたそれらの高山の最初の登山者も恐らく行者や修験者達であつたであらう。白衣で六根清淨を唱へながら登る風習は今日もなほ残つてゐる。但し今日の不二講御嶽講等の連中の登山は、主として行樂を第一義的な目的としてゐるのは明らかである。

四、文明人の心に潜在する原始への歸趨。

野蠻への若返りである。Back to nature である。石川欣一氏は氏自身の山へ登る理由として、この自然にかへることと、第一の最後の場合の Complete rest の要求の二つを舉げてゐる。(石川欣一氏著「山へ入る日」六二頁參照)

五、アインザームカイトを憧れる心。

この孤獨性への憧れの強弱の程度は、個人の性格素質に依つて著しく異なる。

六、逃避的な氣もち。

悲觀的な厭世的な人生觀から。之は殊に東洋人に多い。

佛陀の入山、西行の旅、長明の方丈生活等は、この顯著な例である。これよりも更に軽い意味に於けるものは、第一の(ハ)に包含される。

七、自然に浸り或は逍遙することに依つて精神的な打撃に原因する寥心を慰し充さんとすること。

これは勿論(六)とは異なる。又、特殊な、急激な、又は強烈な、精神的打撃といふことに依つて、嚴密には(一)の(ハ)と區別されるべきものである。

八、未知の地に對する好奇心。

人間の本能的な心理である。個人の經驗に於ても、また歴史の上に於ても、これの顯著な結果たる事實に乏しくない。

而して Wanderlust (英國人はこれを Wander thirst と直譯した)さまよひ歩きに對する憧れを分析してみると、強弱の差こそあれ、以上の諸要素がその主要な動機として見出される。

九、冒險心。

十、征服欲。

これは次の登高欲と密接な關係にあるが、特にこれを別

に考へるのは、例へば初登山初登攀等の場合にこれが重要な動機として働くからである。

十一、登高欲とヘーエンワルデルスト。

この二つは對立的に考へるよりも寧ろヘーエンワルデルスト即ち高き世界への憧れは既にそれ自身登高欲に包括されるものと考へる方が妥當であるかもしれない。何となれば登高なる概念はあらかじめ高き世界を假定してゐるからである。而して登高欲には肉体的と精神的の兩方面が考へられる。勿論實際に吾々の登高欲をそそるもの、または登高の過程に於てはこの二つを離して考へることは不可能である。が單に精神的なその發展せる姿相として「理想への憧憬」なる事實をも理解し得られる。そして正しい意味の「登高に依る自我の擴張」とは、この姿相に於て眺められるものでなければならぬ。又 Dar Berg des Himmels 「心の山」とはこれの一つの異つた表現に外ならない。

十二、敢て苦痛困難を経験せんとすること。

苦痛はそれが最後まで苦痛として終るものと、快感に轉身する場合の二つがある。

十三、美的感情の充足。

自然美、山岳美の觀賞に依る美的感情の充足と高揚。

十四。山に於て經驗せる危険苦痛歡喜等を一聯の情緒のうちに戻想して愉しまんとするところ。

これは結果から見たのであるが、かかる悅しい想出が、時には唯そのみが再び山に行かしめる動機となる場合もしばしば經驗するところである。

×

私がいまここに考へ得る場合は以上に盡きるが、これらが登山家自身の意識に現れる場合と、無意識のうちに漠然と働きかける場合がある。即ち石川氏に於ける如く自らの山に登る理由を明かに認識し得る場合と、登山者自身に於てその登山の動機を明確には捕へ得ない場合とがある。何となれば、ある一つの山登りに於て、時にこれらの諸要素のうちのある唯一つのみがその動機を形づくる場合もあらうが、多くの登山に於ては、否むしろ殆んど總ての場合といつても差支ない程、それらの諸要素の幾つかが、それらをば分析解明することの不可能な位にまで渾然と一つに融合して、それぞれの場合に於ける動機を成してゐるからである。そして若し以上私の列擧したものを以つて總ての

場合を盡してゐると假定しても、これらの組合せに依つて極めて多種多様の動機が生れて來る譯である。そしてかくの如き多種多様な動機は各個人に依り、更に嚴密にいへば個々の登山に於て總て異つてゐる。従つてその動機に依存するところの登山の態度傾向等が個々の場合に於てそれぞれ異つてくるのは當然である。而も實際に當つてはかかる心理的な動向ばかりでなく、山岳そのものの種類形態及び季節的條件に支配されるものである。そこから必然的に招來される山登りの複雑性と變異性と多様性に對する理解も、ここにまで考へを運ぶことに依つて極めて容易になつたと思はれる。そしてこの一つの理解に達することが、私のこの山登りの動機に對する考察の主目的なのである。

(一九三〇・八・十五)



前十膝岳より十膝・上ホロカメトツクの連峰を望む

大谷雄三郎

札幌に於て開催せられた距離競走の

感想及順位一束 (上)

高橋 昂

昭和五年の札幌。

それは何と云ふスキー競技に恵まれた年であらう。

一月十二日に開催せられた 高松宮記念飛躍臺開きを皮切りとして、二月十一日、十五日、十六日の三日間に亘る

秩父 高松兩宮殿下御來道記念大會を最後として、五つの大競技會が札幌神社外苑スキー場を中心として各回とも目出度く終了したことは慶賀にたへない。

一月十二日

高松宮記念飛躍臺開き大會

主催 札幌スキー聯盟

一月十八日。十九日

全國大學専門學校對抗スキー競技大會

主催 學生聯盟

一月二十五日。二十六日

全北海道スキー選手權大會

主催 北海道廳山岳會
後援 札幌スキー聯盟

二月九日

全北海道中等學校對抗スキー競技會

主催 北海タイムス社
後援 札幌スキー聯盟

二月十一日。十五日。十六日

秩父 高松兩宮殿下御來道記念大會

主催 札幌スキー聯盟

札幌スキー聯盟の異常なる活動。

上記の五つの競技會を見て目立つてゐることは札幌スキ

― 聯盟の活動である。

札幌スキー聯盟の成立日尙淺く、僅々三ヶ月にして矢繼ぎはやに來る大事業を引受けて、二つの主催と三つの後援をなし、しかも其の後援も事實に於ては主催に等しいものであり、その過重ともいひたき仕事を持辨當で見事背負ひ切つた聯盟員の献心的努力は全く見上げたものであつて、この熱心を以て益々聯盟の結束を固くせんことを切望する

恵まれた天候。

前シーズンの未曾有の大雪のあとをうけて、今シーズンは雪不足の聲をかなり強く耳にした様である。札幌測候所の報告では平年とは大差なしと云ふことである。

ともあれ、雪は昨年よりは少なかつた。けれどもそのために競技會にも差支へると云ふ様なことは全然なかつたばかりでなく、例年吹雪で惱まざるゝ札幌としては、めずらしくも吹雪の皆無と云ふ好條件に、積雪の状態を最も良好ならしめ、恐らく今年の競技會位恵まれた年はなく、又デイスタンス競技當日の天候氣温、雪質に於て良かつたことは全くその前例を見ぬところであつた。

走路に就いて。

在來の札幌の走路はする分永いこと例年用ひられて來て

ゐた。甚だしいのになると六年も用ひたと云ふてゐるが、そのコースがとても平易にとられてゐたので、札幌と云へば誰もが眞先に平易なコースと、好記録と、馬力の選手を想像したものである。その故に、一面地方に出てゝの成績芳しからず、地方のあなどりを受けたことは、少くとも日本スキー界の中心となるべき要素を充分持つて居る札幌として心外に耐えなかつた。不肖私が係長として、その點に於て苦心もし、在來のコースを一變して、新しい走路の指針を示すべく全力を致したつもりである。然しながらそれには選手諸兄の技量も頭におかなければならなかつた。又レースに對する一般人の理解も必要であつた。又走路員をしても走路はかくあるべしと教へる事も必要であつた。而してスキー競技に於て最も人手を多く要し、最も困難なる事業は大長距離の走路である。

その困難な仕事に對して、助けてくれる人の少きに比して破壊する人の多く、殊に標示旗を持ち去られたのには全く閉口、ともかく見物人も選手の氣持になつて走路の手だすけをして欲しいものである。學生大會、北海道選手權大

會、中等學校大會、宮様デーと、各回毎に順を追ふて走路は難かしく探られてゐるたうちでも二月十六日の、三五基米の走路にあつては最も傑出せるものであると思ふ。

新例を開いた記念大會。

記憶に新たなる昭和三年二月二十二日

秩父宮殿下の御來道 ならびに昭和四年一月十七日

高松宮殿下の御來道を永久に記念し奉る大會であり、毎年其の記念すべき二月二十二日を中心として全道民を擧げて健全なる精神及身体の鍛鍊を計るを目的として開催せられ競技組織に於て模範的内容を有して居り、其他、施設の點に於て、北歐の長を採用して本邦に於ける好例を示して居たことは喜びにたえない。

競技組織

幼年組 (滿十一才—十四才迄)

ジャムプ A組 十一才—十二才
B組 十三才—十四才

少年組 (滿十五才—十七才迄)

ジャムプ 長距離

青年組 (滿十八才—二十九才迄)

ジャムプ 大長距離、長距離、複合

壯年組 滿三十才以上

ジャムプ 長距離

右の様な組織によつて各選手は二月十一日正午札幌市役所本部前に集合して、喇叭鼓隊を先頭としてスキーを肩に堂々と札幌神社境内にのり込み定刻勇まじき競技は開始せられた。

當日の特記すべき條項を左に掲ぐ。

1. 競技が幼、少、青、壯と各組別になされたこと。
2. 十八籽の申込多數のため、各選手の雪質に對する變化を少くするために出發が三十秒毎に、二名宛なされたこと。
3. 勇壯なる音楽隊によつて絶えず士氣を鼓舞されてゐたこと。
4. 歩兵第廿五聯隊の雪中スキー演習の舉行されたこと。
5. 陽光を浴びて競技を樂み得たこと

記念大會大長距離競走の雪質に就いて。

學生大會、北海道選手權大會、中等學校對抗競技會といづれの大會も終始良雪質に恵まれ、塗蠟術、滑走術に於て平凡と申したい位、一定不變の状態におかれてゐた。こゝ

した良状態の日の競技と云ふことは札幌のどの競技會もの記録を高めた。けれども一方毎年の競技會が最良な粉雪状態の一月にのみ舉行されて來た關係上、その粉雪以外の雪質に對する塗蠟及滑走術に於て極めておくるゝの處があつたのである。

而して大長距離競走の當日の雪質は可成りの變化を多分に持して居り、塗蠟に於ては勿論のこと滑走術に於て非常なる變化を來してゐたと思ふ。

當時の雪質には少くも四種の狀態を其の走路の位置によつて保たれてゐて、その粒状雪の狀態が可成りに北歐の雪質に似通ふてゐた様に思れた。

加ふるに走路が六ヶ敷くなつてゐたために選手諸君は随分困苦してゐた様であるが、スキーの眞の力量と云ふものはこうした複雑な状態の時に於て表れるものであり、その意味からして本道に於ける選手の順位は此の大會によつて決せらるゝではないかと思ふのである。

尙、例年北海道に於ては二月十日を境として雪質に非常な變化を來し、二月下旬の雪質及状態がホルメンコロン大會の諸狀況と大變よく似て居るのである。

第一回御來道記念大會

18km デイスタンスレース記録表 昭和5年2月11日 (午後1時30秒出發)

順位	所屬	姓名	出發時刻	到着時間	所要時間	漚ノ澤通	成績順位	備考
1	一中	林 俊夫	1° 4'	2°37'46"	1°33'46"	1°52'20"		少年組
2	"	佐藤 昇	1° 1'	2°38' 1"	1°37' 1"	1°50'30"		(満15才-17才)
3	二中	伊藤 雅男	1° 3'	2°42'57"	1°39'57"	不明		出場者12名途中棄權 4名
4	北中	山口 正一	1° 4'30"	2°46'38"	1°42' 8"	1°57'30"		
5	"	毛内 正	1' 6"	2°49'17"	1°43'17"	1°58' 0"		
6	二中	山口 孝	1° 1"	2°49'15"	1°48'15"	1°57' 0"		
7	札幌	安達 重光	1° 3'30"	2°58'41"	1°55'11"	1°59' 0"		
8	二中	長田 正夫	1° 3'	3° 3'17"	2° 0'17"	2° 4' 0"		

1	北大	黒田 敦	1°21'	2°52'22"	1°31'22"	2° 8' 0"		青年組
2	北中	棚橋 卓郎	1°21'30"	2°52'53"	1°31'23"	2° 9' 0"		(満18才-29才)
3	北大	中村新一郎	1°26'30"	2°58'31"	1°32' 1"	2°13' 0"		出場者31名 途中棄権13名
4	札鐵	葛西儀四郎	1°13'30"	2°46'16"	1°32'46"	2° 1'		
5	北大	奥井 由雄	1°19'	2°52' 5'	1°33' 5"	2° 6'30"		
6	〃	安孫子六郎	1°19'	2°54'51"	1°35'51"	2° 8' 0"		
7	北大 OB	長田 光男	1°14'	2°52'13"	1°38'13"	2° 3'		
8	札師	石塚 正雄	1°25'30"	3° 4'55"	1°39'25"	2°15'		
9	〃	三上 勝雄	1°24'30"	3° 3'56"	1°39'26"	2°17'		
10	北中	河原 武雄	1°24'	3° 7'22"	1°43'22"	2°18'		
11	カン パ口	村木 慶三	1°17'	3° 1'30"	1°44'30"	2° 7'30"		
12	北大	中山 二郎	1°16'30"	3° 1'34"	1°45' 4'	2°11'		
13	小椋	關口 勇	1°22'	3° 9' 9"	1°47' 9"	2°16'		
14	北大	關 四郎	1°26'	3°13'11"	1°47'11"	2°20'30"		
15	札師	竹内 春雄	1°23'30"	3°11'57"	1°48'27"	2°20'		
16	逓友	長谷川愼吾	1°22'	3°16'43"	1°54'43"	2°21'30"		
17	北中	尾田 義雄	1°19'30"	3°15'40"	1°56'10"	2°16'		
18	逓友	森 徳一	1°18'	3°16'39"	1°58'39"	2°17'25"		

1	三角山	芳賀恒太郎	1°25'30"	3° 3'56"	1°39'26"	2°17'		壯年組
2	北海 タイムス	眞山 博	1° 9'30"	3°11'44"	2° 2'14"	2°10'30"		(満30才以上) 出場者4名
3	道廳	高野 重一	1°16'	3°21'52"	2° 5'52"	2°19'		
4	中野	針生 巖	1°13'	3°38'50"	2°25'50"	2°29'		

雪質 濕 天候 晴 無風 氣温 +4°

狀況 良

第一回御來道記念大會

35km デイスタンスレース記録表 昭和5年2月16日(午前10時1分出發)

順位	所屬	姓 名	出發時刻	到着時刻	所要時間	15km 盤ノ澤小學校	22km 瀧ノ澤	備 考
1	北大	奥井 山雄	10 ¹⁷ '	2° 2'40"	3°46'40"	11'47"	不 明	標示旗ニ不備ノ點アリテ逆道ヲナシ1分ヲ加フ
2	三菱美唄	星 光 平	10 ²⁹ '	2°30'20"	4° 1'20"	12"	12'56"	
3	北中	北山 正潔	10 ¹⁵ '	2°19'37"	4° 4'37"	11'47"	12'41"	
4	一中	佐藤 啓介	10 ¹⁴ '	2°21'16"	4° 7'16"	11'52"	12'53"	
5	札商	後藤 民彌	10 ³⁶ '	2°48' 6"	4°12' 6"	12'23"	1'21'10"	
6	一中	山田 四郎	10 ¹³ '	2°29'22"	4°16'22"	11'52"	12'47"	
7	北大	小館 衷一	10° 8'	2°26'50"	4°18'50"	11'49"	12'50"	
8	カンバ口	村木 慶三	10° 9'	2°39'48"	4°30'48"	11'52'30"	12'57"	
9	北大	黒田 敦	10°33'	3° 4'59"	4°31'59"	12° 4'	12'59"	
10	三角山	瀧谷幸之進	10°23'	2°56' 9"	4°33' 9"	12"	1° 8'	
11	北大OB	杉村鳳次郎	10°25'	3° 5'50"	4°40'50"	12° 8'	1'15'20"	
12	北中	日沼 三郎	10°10'	3°12' 2"	5° 2' 2"	12° 6'	1'15'10"	
13	道廳	福田 傳達	10°24'	3°27'14"	5° 3'14"	12°24"	1'28"	
14	N.S.	土岐幸二郎	10°27'	3°32' 4"	5° 5' 4"	12°25'30"	1'37'40"	

出場者 21名 途中棄権 7名

雪 質 良 天 候 晴 後 小 雪
 状 況 不良(ウキンドクラスト)

第三回學生大會

40km デイスタンスレース記録表 開催日 昭和5年1月18日

競技 番號	所屬	姓 名	出發時刻	到着時刻	所要時間	12km 幌見通過時	25K左股	34km 幌見歸り
20	明	横 山	A.M. 10° 4'	1°26'26"	3°22'26"	11° 6'	11'58"	1° 6'
19	早	岩 崎	10° 3'	1°26'21"	3°23'21"	11° 5'	11'57'30"	1° 6'
25	北	宮 原	10° 9'	1°40'56"	3°31'56"	11'15"	12'10'10"	1°20'
4	"	宮 下	9°48'	1°21'10"	3°33'10"	10°50'	11'45"	1°00'00"

21	北	小 館	10° 5'	1°39'18"	3°34'18"	11°12'	12° 9'30"	不 明
14	早	山 口	9°58'	1°35'31"	3°37'31"	11° 6'	12° 4'30"	1°14'
29	法	小 松	10°13'	1°51'56"	3°38'56"	11°18'	12°14'30"	1°29'
26	明	後 藤	10°10'	1°52'30"	3°42'30"	11°16'	12°14'	1°30'
22	北	中 村	10° 6'	1°51'37"	3°45'37"	11° 9'	12°10'	1°28'
6	〃	安 孫 子	9°50'	1°36'24"	3°46'24"	10°58'	11°58'	1°17'
5	〃	弓 納 持	9°49'	1°38' 6"	3°49' 6"	11° 1'	11°58'30"	1°13'
23	明	鈴 木	10° 7'	1°59'18"	3°52'18"	11°17'	12°17'30"	不 明
3	早	鎌 田	9°47'	1°43'11"	3°56'11"	11° 3'	12° 4'	1°18'30"
1	〃	千 葉	9°45'	1°45'27"	4° -27"	10°58'	11°59'	1°21'30"
27	小樽	北 村	10°11'	2°26'51"	4°15'51"	11°29'	12°37'	不 明
途中棄権 早大 1名 明大 3名								

雪 質 最 良 天 候 快 晴 氣 温 -10° (.8³⁰am)
 状 況 最 良

第三回 學生大會 (單複)

18km. デイスタンスレース記録表

開催日 昭和5年1月18日

競技 番號	所屬	姓 名	出發時刻	到着時刻	所要時間	10km 觀 見通過時	成績順位	備 考
44	明	栗 谷 川	P.M. 2'48"	4° 2'47"	1°14'47"	3°35'	1	(複)
32	早	坪 川	2'36"	3°56'13"	1°20'13"	3°30'	2	(〃)
16	〃	矢 澤	2'20"	3°40'59"	1°20'59"	3°10'	3	(〃)
43	北	黒 田	2'47"	4° 8'14"	1°21'14"	3°31'	4	(〃)
39	〃	奥 井	2'43"	4° 5'41"	1°22'41"	3°35'	5	(〃)
22	〃	宮 村	2'26"	3°51'35"	1°25'35"	3°20'	6	(〃)
12	明	宮 川	2'16"	3°42'33"	1°26'33"	3° 8'	7	
33	〃	安 達	2'37"	4° 3'33"	1°26'33"	3°20'	7	(複)
36	〃	緒 方	2'40"	4° 6'36"	1°26'36"	334'	8	
30	法	今 村	2'34"	4° 1'40"	1°27'40"	3°28'	9	(複)
51	北	武 野	2'55"	4°23'57"	1°28'57"	3°50'	10	(〃)

11	北	宮 本	2°15'	3°45'20"	1°30'20"	3°10'	11	(複)
25	法	神 代	2°29'	3°59'25"	1°30'25"	3°24'	12	(〃)
4	〃	新 井	2° 8'	3°38'37"	1°30'37"	3° 4'	13	(複)
49	北	中 山	2°53'	4°23'56"	1°30'56"	3°47'	14	
31	〃	植 地	2°35'	4° 6'29"	1°31'29"	3°31'	15	(複)
34	小樽	植 地	2°38'	4° 9'49"	1°31'49"	3°33'	16	
37	早	奥 山	2°41'	4°14'24"	1°33'24"	3°38'	17	(複)
46	法	宮 井	2°50'	4°23'50"	1°33'50"	3°46'	18	(〃)
1	早	馬 場	2° 5'	3°41'14"	1°36'14"	3° 3'	19	(複)
38	小樽	加 藤	2°42'	4°18'38"	1°36'38"	3°42'	20	
35	明	傍 土	2°39'	4°16'10"	1°37'10"	3°38'	21	(複)
19	小樽	小 畑	2°23'	4° 1' 7"	1°38' 7"	3°22'	22	
48	北	吉 田	2°52'	4°31'46"	1°39'46"	3°52'	23	(複)
8	小樽	山 本	2°12'	3°52' 2"	1°40' 2"	3°13'	24	
10	〃	比 羅	2°14'	3°55'12"	1°41'12"	3°17'	25	
42	日	三 澤	2°46'	4°33'14"	1°47'14"	3°48'	26	(複)
23	〃	小 倉	2°27'	4°14'35"	1°47'35"	3°32'	27	(〃)
7	専修	山 吉	2°11'	4° 3'47"	1°52'47"	3°16'	28	
3	日	田 上	2° 7'	4° 4' 5'	1°57' 5"	3°20'	29	(複)
途中棄權 明大 4名 専修大 1名 小樽高商 1名								

雪 質 最 良 天 候 快 晴 氣 温 -8°
 狀 況 最 良

學 生 大 會 32km.			リ レ ー レ ー ス		
1. 早大組	個人所要時	所要時	4. 法大組	個人所要時	所要時
{ 坪川 山 澤 矢 崎 岩 崎	28' 3"	1° 52' 2"	{ 今村 新 井 小 松 神 代	29' 40"	2° 58' 5"
	28' 30"				
	38' 3"				
	27' 26"				
2. 明大組			5. 小樽高商組		
{ 宮 川 緒 方 栗 谷 横 山	28' 43"	1° 52' 11"	{ 加 藤 植 地 北 村 比 良	34' 26"	2° 10' 31"
	30' 43"				
	25' 45"				
	27' 0"				
3. 北大組			6. 日大組		
{ 黑 田 中 村 宮 下 奥 井	29' 3"	1° 55' 54"	{ 小 倉 平 野 田 上 三 澤	35' 52"	2° 21' 45"
	28' 29"				
	27' 58"				
	30' 24"				

『スキージャムピング』に就て

木 原 均

本稿は本年二月二十四日から八日間オスロに於て開催の國際スキー聯盟總會並に國際スキー選舉權大會(列席の爲御出發の数日前旅の準備にお忙しいなかを先生から「山とスキー」の會から出版した廣田戸七郎氏著「スキージャムピング」に對して寄せられたものであるが「山とスキー」二月號刊行後に着いたので其の儘になつてゐたのを本誌に掲げることになりました。(寛)

「スキージャムピング」(大正十二年)が出た頃と比べると現在の日本ジャムプ競技は驚くべき進歩を遂げて居る。その頃の最高記録が廿一米であるのに七年後の現在では四十米となつて居る。又固定ジャンツエの数もその頃は小規模のものが一二あつたに過ぎないが現在では四十米以上飛べる臺は各スキーの中心地に一つはあると云ふ有様である。

此の數字を見ると日本のジャムプ界が國際的に見て相當のレベルに達したと思はれるが、さう容易く樂觀は出来ない。進歩には準備が肝心である。殊にジャムプ競技にあつては技術の練磨も必要であるが、ジャンツエの構造及びその手入れについての根本的準備がなくてはならぬ。確實に四十米もジャムプをするやうにジャムパーを養成するには先づジャンツエを作るべきである。恐らくよいジャンツエは自然によりジャムパーを作つて呉れるであらう。

よい構造の臺はよい設計者を要求し、よい手入れはよき管理者を必要とする。而して管理者を助けるためにはジャムパー及び一般スキー家のジャンツエ尊重に對する理解を高めねばならぬ。

ジャムプの技術については今日日本は惱んで居る状態と見られる。昨今漸く強い踏切りの必要を痛切に感じてその爲めに着陸不安定の結果思はぬ不覺を取るが如き、一種の過渡期にあるものと察せられる。此の如き時期が短かく通り過ぎる事とは信ぜられるが、早く此の域を脱して欲しい。

昨年大倉男の招聘に依り諾威からヘルセット中尉一行が来て日本のスキー界に與へて呉れた大きな教訓はジャムプのみに限らないが此の方面には特にその影響が大きい。同中尉の設計によつて來シーズンには國際的のジャンツエが出現する筈である。従つて進歩した技術をいくらでも使へる場所には事を缺かないわけである。と同時に之を保管し維持をする爲めに吾がスキー界、特に札幌スキー家は大いに努力すべきである。

著者廣田君はヘルセット中尉一行を案内し日本の各スキー地でジャンツエの新設又は改造を實地に見、又競技會の審判、進行、組織に關する充分の智識を體得して居る。その上著者はかつて歐洲各地のスキー競技場を見て來て居るのでその蘊蓄を傾けた本書は現在のスキー界にとつて不足の點を補つて呉れるに相違ないと信ずる。必ずや本書がよき相談相手、よき指導者となる事と願つて此の推薦の言葉を連ねる譯である。

雜 錄

秩父宮家御用空沼小屋

秩父の宮さまの御思召によつて、空沼嶽の中腹万計沼湖畔に建てられたヒユツテは昨年高松の宮様が御來道遊され親しく開所式に臨まれて名を空沼小屋と御命名になり、其の上設備品として數々の品物を宮さまより管理を御任せになつた北大スキー部に對して御下賜になつたことは、雜誌「山とスキー」に書きましたが、更に此湖畔を訪ふ人々の爲にこの秩父宮家御用の小屋を本年二月十一日より開放下さることになつたのは既に衆知のことでありますが、未だ御承知ない方のために、使用規程、使用者心得並に宣誓式の模様と今日迄の使用者の人數等について左に御知らせします。

宣 誓 式

秩父宮家御用空沼小屋を御開放下さることに定り、本年二月十一日小屋の前、万計沼湖上に於て、大野北大スキー部長並に關係者一同參列のもとに遙拜式並に宣誓式を舉行した。

午前七時一同湖上に整列して、宮城に向つて遙拜をなし國歌「君が代」を二唱の後、天皇、皇后陛下の萬歳を三唱、秩父宮、同妃殿下の萬歳を三唱、高松宮、同妃殿下の萬歳を三唱して使用者總代北海道帝國大學々生宇都宮高宣誓をなして式を閉づ。

宣 誓

殿下の特別の御思召によりて本日より私共スキー仲間空沼小屋を御開放下さつたことを感謝致します。私共は今後小屋使用規定並に使用者心得を確く守ることを遙に御誓ひ申上げます。

I 使用者規定

- 第一條 空沼小屋ハ宮家ノ思召ニヨリ一定ノ手續ヲ經テ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第二條 小屋使用希望者ハ北海道帝國大學文武會スキー部長ニツキ問ヒ合セスベシ
- 第三條 小屋使用ヲ出願セントスル者ハ所定ノ願書ヲスキー部長ニ差出シ使用許可證ヲ受クベシ右許可證ヲ有スル者ニアラザレバ小屋ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第四條 小屋ノ使用ハ許可證ノ指定スル期間内ニ限ル但シ止ムヲ得ザル事由(例ヘバ天候病氣等)ニヨリ使用ガ期間外ニ亘ルトキハ使用濟ノ上直ニ届出テ指圖ヲ受クベシ
- 第五條 小屋使用者ハ次ノ使用料ヲ納付スベシ
自十一月一日至六月三十日 一人一日ニ付 金貳拾五錢
自七月一日至十月三十一日 一人一日ニ付 金拾錢

第六條 一旦納付シタル使用料ハ事由ノ如何ヲ問ハズ之レヲ返附セズ

第七條 小屋使用者ハ充分登山及スキーノ經驗アル者タルヲ要シ其一行中ヨリ主腦者一名ヲ定ムベシ而シテ右主腦者ハ同行者ノ小屋使用ニ關シ其責ニ任スベキモノトス

第八條 使用ヲ許可セラレタル者ハ特ニ禁止セラレタル小屋ノ部分及ビ備付器具ヲ除キ一切ヲ使用スルコトヲ得

第九條 使用者ハ使用者心得ヲ嚴守スベシ

第十條 同宿者多キ場合ニハ小屋ノ使用ニ關シテハ主腦者相

五ニ於テ之ガ協定ヲナスベシ

第十一條 故意又ハ過失ニヨリ小屋又ハ備品ヲ毀損シタル者ハ辨償ヲナスベシ

第十二條 使用者ハ使用者名簿ニ所定ノ記入ヲナスベシ

第十三條 使用済ノ上ハ直ニ使用許可證ト共ニ鍵ヲ返却シ且ツ使用狀況ヲ報告スルヲ要ス

第十四條 失念其他故ナクシテ所定ノ期日ニ鍵ヲ返却セザルトキハ其期間ノ小屋使用料ヲ追徵スルコトアルベシ

第十五條 小屋ノ使用ニ關シ不都合ノ處爲アリタリト認ムルトキハ爾後ソノ同行者ノ加入スル一行ノ小屋使用ヲ許可セザルコトアルベシ

空沼小屋管理者 北海道帝國大學文武會スキー部長
帝室林野局札幌支局長

一、謙讓ノ德ヲ守リ登山道徳ヲ重ンズルコト
二、小屋内ニテハ脱靴スルコト
三、小屋ノ内外及諸物品ハ努メテ清潔ヲ保チ汚損セザル様留意

II 使用者心得

シ使用シタルモノハ必ず手入ヲナシ所定ノ場所ニ整頓シ置クコト

四、火氣ハ特ニ注意スベシ

イ 就寢ノ際ハ消燈スルコト
ロ 階上並ニ寢臺ノ上ニテ喫烟セザルコト

ハ 小屋使用済後ハ燵爐ノ殘火ヲ充分ニ消火スルコト
ニ 石油其他燃エ易キモノハ火氣ニ近付ケザルコト

ホ 其他火器ヲ用ユルトキハ注意スルコト
ヘ 山火ニ注意スルコト

五、燃料其他ヲ濫費セザルコト
六、退去ニ際シテハ拭掃除ヲナシ窓及入口ノ戸締ヲ嚴重ニスルコト

七、附近ノ森林ヲ損傷セザルコト
八、使用者名簿ニハ一行ノ氏名到着及出發ノ年月日時刻其他行程滞在ノ狀況ヲ主腦者ヲ先ニシ以下順次概略ヲ記入スルコト

九、小屋使用料ハ前納トシ一旦納付シタル使用料ハ事由ノ如何ヲ問ハズ之レヲ返付セズ

一〇、交付ヲ受ケタル鍵ハ大切ニ取扱ヒ小屋使用済後ハ直チニ返却シ使用狀況ヲ報告スルコト

一一、失念其他故ナクシテ所定ノ期日ニ鍵ヲ返却セザルトキハ其期間ノ使用料ヲ追徵スルコトアルベシ

空沼小屋使用許可願

III 使用許可願

空沼小屋使用許可願

一、使用期間 自昭和 年 月 日至昭和 年 月 日

一、使用者（住所、職業、或は所屬團體、氏名）
空沼小屋使用規定並ニ使用者心得ヲ嚴守可致候間小屋使用御許可相成度此段及御願候也

昭和 年 月 日

住所

職業

主腦者

住所

職業

證明者

北海道帝國大學文武會スキー部長殿

因に使用許可を得たい方は、上掲の使用規定、使用者心得を承知の上直接北大スキー部長に御相談の上使用許可願を提出されるのが都合がよい。

そしてまたこの小屋は十五六人位の宿泊は出来るが希望者が多いからやはり一組五六人以下の程度で申込んで貰ひたいと管理者の方で希望して居ります。勿論日歸りならば幾人でも差支ないとのことです。

▲使用人員

聞く所によれば昭和五年二月十一日開所以來同八月二十一日迄使用許可をされたものは

種別	使用人員	使用延人員
官公吏	二六八人	五七〇人
學生	一五一一人	三七〇人
其他	七五人	一三〇人
計	四九四人	一、〇七〇人

以上の如く拜用の光榮に浴したものが多数に上つてゐる。

▲ヘルヴェチアヒユツテ訪問人員數

ヘルヴェチアヒユツテ（一九二七年秋落成）訪問者數は最初の年一九二八年分を嘗て山とスキー誌上に報告しましたが茲に一九二九年分と共に併せて報告することとします

月	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
一月	四九	五一	七
二月	七六	七三	三四
三月	六二	七一	三三
四月	二三	二五	四二
五月	八	二五	七九
六月	三〇	一四	五三
合計	三〇	一四	二五

（ヘルヴェチアヒユツテ管理者）

◆山と雪の會

第一條 本會ハ「山と雪の會」ト稱ス

第二條 本會ノ目的

一、「山岳」ト「スキー」ニ關スル研究調査及獎勵
一、「山岳」ト「スキー」ニ關スル資料蒐集並ニ圖書及博物館ノ設置

第三條 本會ハ左ノ八名ヲ以テ組織ス

大野精七 山崎春雄 廣田戸七郎
伊藤豊次 伊藤秀五郎 高橋 昂
小川玄一 長野 寛

第四條 本會ノ目的ヲ達スル爲ニ左記事業ヲ行フ

一、雜誌「山と雪」ヲ毎月一回一日ニ發行
一、必要ニ應ジ雜誌刊行以外ニ「山岳」ト「スキー」ニ關スル各種ノ事業ヲ行フ

第五條 本會ノ事務所ヲ札幌市北二條西十三丁目一番地ニ置ク

第六條 本會ニ代表者一名ヲ置ク

代表者 北大教授 大野 精 七

第七條 本會ニ主事一名ヲ置キ會員指導ノ下ニ會務ヲ處理ス

主事 長 野 寛

第八條 本會ハ毎月一回第二水曜日ニ例會ヲ開ク

第九條 本會ニ顧問ヲ置ク

第十條 本會ノ經費ハ會費及ビ刊行ノ書籍雜誌ノ賣上金並ニ其ノ廣告料及ビ賛助金ヲ以テ支辨ス

第十一條 本會ハ種々ノ事業ニヨリ得タル益金並ニ有志ノ賛助ヲ仰ギ基本金トナス

昭和五年六月二十六日ヲ以テ本會ノ創立日トス

(II) 顧問

男 爵	稻 田 昌 植 殿
林 常 夫 殿	
細 川 護 立 殿	
德 川 義 親 殿	
渡 邊 八 郎 殿	
並 河 功 殿	
黑 井 梯 次 郎 殿	
松 方 三 郎 殿	
横 有 恒 殿	
小 泉 秀 雄 殿	
河 本 禎 助 殿	
木 原 均 殿	

札幌市長橋本正治殿、伯爵前田利男殿は目下御旅行中に、御通知に接しないけれど、近く御承諾下さることゝ思ひます。

此の外に、建築家ヒンダー氏、北大教授グブラー氏、鐵道教習所の大谷雄三郎氏は夫れ々々本會の創立に際して特別な好意と援助を寄せられた。

◆寄贈並新着圖書

武田久吉著 尾瀬と鬼怒沼 東京 梓書房
 辻村伊助著 スウイス日記 同
 辻村伊助著 ハイランド 同
 アスレチックス 大日本體育會
 山と旅 ジャパンキャンピングクラブ

◆「山とスキー」のバックナンバー

唯今左の號數の殘本が山とスキーの整理委員の手許にあります。御希望の方には一部送料共金三拾錢で喜んで御頒ちします。

- 第一年目 (1-15) 8. 12. 15.
- 第二年目 (16-26) 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26.
- 第三年目 (27-37) 27. 28. 29. 30. 35. 37.
- 第四年目 (38-49) 36. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49.
- 第五年目 (50-60) 51. 53. 54. 55. 60.
- 第六年目 (61-72) 61. 62. 63. 64. 67. 68. 69. 70. 71. 72.
- 第七年目 (73-83) 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83.
- 第八年目 (84-94) 84. 85. 86. 87. 88. 90. 91. 92. 93. 94.
- 第九年目 (95-100) 96. 97. 98. 99-100.

餘 録 記

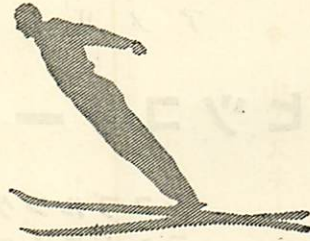
山と雪の會の仕事について各方面から照會がありました。何れ次號あたりに發表することにします。

創刊號に掲載の豫定であつた高橋會員の「スキー保存法の一考察」は印刷の都合で次號に掲載することにした。

此の「山と雪」を讀まるゝ方に對して、山岳とスキーに關する御寄稿と寫眞や資料を提供していただくことを特に希望します。

本會の創立並に本誌發行に際して特に祝辭をいただいた、左の方々に對して深く感謝します。

- 舞鶴 長尾惣助殿 長岡 松木喜之七殿 福岡 竹内 亮殿
- 札幌 柏木次郎殿 西宮 田上二郎殿 東京 山田 力殿
- 神戸 津田周二殿 樺太 鈴木信三殿 京都 今西錦司殿
- 樺太 田村節郎殿 山形 廣江 明殿



ス キー ヤ ジ ャ ム ピ ャ ン

廣田戸七郎著

山とスキーの會刊行

本書はスキー競技に於て最も重要なスキージ
ヤムブの一切を解説し、且つ國際スキー競技
會に於けるジヤムブ競技の狀況を詳説してあ
ります。

四六判

二百四十頁
別刷寫眞版 三十二葉
挿入圖版 四十餘圖

定價 金壹圓五拾錢
送料 拾貳錢

御希望の方は振替口座小樽八四九五番札幌市
北二條西十三丁目一番地「山と雪の會」宛に
御申込と同時に御振込下さい。

アメリカ直輸入

ヒツコリースキー材

シュブルングスキー
ラングラウフスキー
一般用キスー

Haga Ski



スキー附屬品

芳賀スキー商店

札幌市圓山四丁目
北海道

京大講師
理學博士

武田久吉著 (最新刊)

尾瀨と鬼怒沼

敬虔なる山岳宗徒の清杖は既に上高地には印されない。往昔の神河内を懐しむ吾岳友諸兄は安息所として唯一の神境尾瀨を有つ。

本書は高山植物學界の至寶武田博士が過去數次に亙る尾瀨調査旅行の所産にして、紀行文集なると共に貴重なる學術的記録、植物景觀である。卷末に附綴せる百葉の寫眞は其鮮麗さに於て、其學的價値に於て、正に世の驚異であらねばならぬ。敢へて諸彦の清鑑を仰ぐ。

四六判・三七〇頁
寫眞一〇〇枚
地圖(大)一枚
裝幀 清雅
定價 三圓
送料 二十七錢

目 要

- 尾瀨と鬼怒沼
- 初めて尾瀨を訪ふ
- 尾瀨再探記
- 尾瀨をめぐりて
- 春の尾瀨
- 秋の尾瀨

辻村伊助著 スウイス日記

送・二七
送・二七

加納一郎著 氷

と 雪

日本山岳會編 山

日 記

送・一六〇
送・一三〇

東京市神田區
北甲賀四區

梓書房

東京市神田區
北甲賀四區

東京市神田區
北甲賀四區

高級スキークラフタス
オリエント

發 賣 元

飯 田 商 會

札幌市南一条東二丁目

◆「スキー」を研究せられる人、登山に興味を
持たれる方が一人でも多くお読み下さること
をお願ひいたします。

◆「山岳」と「スキー」に関する御寄稿と寫眞
の御惠送をお願ひします。
原稿紙は御申越次第お送り致します。

◆原稿は、。を一字とし、行を更めるときは一
字下けること。

定 價 金 參 拾 錢

*前金御申込か、現金でなければお送りいた
しません。

*御送金はなるべく振替にてお願致します。

*六册分前金拂込の方には送料を頂きません

*前金の切れた時の御知らせは最後の分の包
装に同封します。

*次の御送金あるまで配本を見合せます。

昭和五年九月二十七日印刷
昭和五年十月一日發行 (毎月一回一日發行)

編輯者 長 野 寛

印刷兼 發行者 長 野 寛

北海道札幌市北一條西二丁目

印刷所 札幌印刷株式會社

北海道札幌市北二條西十三丁目

發行所 山と雪の會

振替口座水樽八四九五番

昭和五年九月二十七日
印刷納本
昭和五年十月一日
發行

美滿津の冬山の道具!!

登録商標

『アールベルグ・スキー』新發賣

アメリカン・ヒツコリー及いたや其他各種

署名入

“HANNES SCHNEIDER”



(型録進呈)

合名會社

美滿津商店

東京本郷赤門前

山と雪

創刊號

定價金三十錢